

令和7年8月6日

## 令和7年度第1回岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

### 1 日時

令和7年6月11日(水) 15:00~17:00

### 2 場所

岸和田市役所 新館4階 第2委員会室

### 3 出席者

#### <委員>

石田委員長(同志社大学 名誉教授)

似内副委員長(和歌山大学 産学連携イノベーションセンター 副センター長/専任准教授)

松下委員(中小企業診断士/大阪府 商工労働部 商工労働総務課 大阪産業経済リサーチセンター 主任研究員)

音揃委員(岸和田市漁業協同組合 監事)

中委員(春木漁業協同組合 代表理事組合長)

永谷委員(岸和田商店街連合会 会長)

片山委員(公募委員)

木下委員(公募委員)

山口委員(公募委員)

#### <事務局>

船橋 恵子(岸和田市 魅力創造部長)

上東 束(魅力創造部 産業政策課長):司会

橘 隆太(産業政策課 事業者支援担当長)

平野 智志(産業政策課 産業振興担当長)

池内 悦子(産業政策課 労働政策担当長)

西川 茂伸(農林水産課 農業振興担当主幹)

田中 昌博(農林水産課 林政水産振興担当長)

有留 朋治(観光課 観光振興担当主幹)

西村 雅彦(観光課 観光振興担当長)

庄司 美佑乃(産業政策課 事業者支援担当員)

廣岡 日向(産業政策課 産業振興担当員)

小島 葉奈(産業政策課 労働政策担当員)

#### 4 欠席者

南委員（社会保険労務士／大阪ビジネスサポートセンター 代表）

山中委員（株式会社池田泉州銀行 泉州営業部長）

谷口委員（いずみの農業協同組合 代表理事組合長）

中井委員（岸和田商工会議所 会頭）

#### 5 傍聴者

0名

#### 6 議事録

##### 詳細議事内容

<司会>

（開催挨拶）

（委嘱についての案内）

<岸和田市長>

（各委員委嘱予定者へ委嘱状を交付）

岸和田市長の佐野でございます。

平素は、本市の産業振興行政に格別のご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、本日はお忙しい中、お集まりをいただき、岸和田市産業活性化推進委員にご就任いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

昨年度の会議では、「新・産業ビジョン岸和田」の進捗管理といたしまして、14項目の基本施策の指標や事業指標などについてご審議いただきました。

今年度は、Kishi-Biz が、岸和田市ビジネスワンストップ伴走支援センターとして再スタートし、秋には全国豊かな海づくり大会のプレイベントの開催等、本市がより一層盛り上がる年になります。

岸和田市がますます発展できるよう、オフィス誘致等、新たな産業振興を醸成できるよう取り組んでいく所存でございます。

本日は、今年度のワーキング会議に向けた、令和6年度の事業報告と、今後の進行管理について、ご議論をいただきたく存じます。

皆様の忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

<司会>

(各委員の紹介)

(岸和田市長退席)

(事務局の紹介)

本日は13名中9名の委員にご出席いただいております。岸和田市産業活性化推進委員会規則第5条第2項の規定に基づき、過半数の委員のご出席がございますので、本委員会は有効に開催されたことをご報告いたします。

また、本日の委員会は、岸和田市審議会等の会議及び会議録の公開に関する条例第5条に基づき、傍聴が可能となっておりますが、本日の傍聴者はございません。また、本委員会の議事録は後日公開することとなっております。

次に、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

(委員会における注意事項の説明)

それでは議事に入ります。本日の議題は、次第のとおりです。

「(案件1) 委員長及び副委員長の選任について」です。

委員長と副委員長の選任については、岸和田市産業活性化推進委員会規則第4条第1項に基づき、委員の互選により定めることとなっておりますが、委員長、副委員長の選考について委員の皆様いかがでしょうか。

<委員>

委員長に石田様、副委員長に似内様でいかがでしょうか。

<司会>

委員長に石田委員、副委員長に似内委員のご推薦の声がありましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

<委員各位>

異議なし。

<司会>

それでは、石田委員に委員長を、似内委員に副委員長をお願いしたいと思います。

委員長、副委員長は、それぞれ委員長席、副委員長席にご移動お願いいたします。

また、ご就任いただきました委員長から一言ご挨拶をお願いいたします。

<委員長>

改めまして、石田です。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様それぞれのお立場からの貴重なご意見を、この会議に反映させたいと思いますので、どうぞ積極的にご発言いただきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<司会>

委員長ありがとうございました。

それでは「(案件2)新・産業ビジョン岸和田(岸和田市産業振興基本計画)の進行管理について」以降の議事を進めます。本委員会の運営については、岸和田市産業活性化推進委員会規則第5条第1項に基づき、委員長が議長となり、今後の進行を進めていただきます。よろしくお願いいたします。

<委員長>

それでは、次第に沿って進めてまいります。

「(案件2)新・産業ビジョン岸和田(岸和田市産業振興基本計画)の進行管理について」に入ります。

まずは事務局より、「(1)評価シートの変更点及び令和6年度までの施策に対する市の評価と今後の方向性に関する説明」「(2)新・産業ビジョン岸和田にかかる進捗状況整理(評価)の進め方」について説明し、その説明内容について質疑を行います。

その後、「(2)新・産業ビジョン岸和田にかかる進捗状況整理(評価)の進め方」について採決を行います。

なお、評価シートや施策等についての個別のご意見は、「(案件3)新・産業ビジョン岸和田 評価シートの内容に関する意見について」で改めて審議の場を設けます。

それでは、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

「(案件2)新・産業ビジョン岸和田(岸和田市産業振興基本計画)の進行管理について」「(1)評価シートの変更点及び令和6年度までの施策に対する市の評価と今後の方向性に関する説明」について、資料3と資料4を用いて、以下の3点を説明した。

①評価シートについて、新たに記載した箇所については、網掛けをしている。

また、一部の評価シートにおいては、新たに施策指標等を設定したものや、国等のデータ更新に伴い、過去の実績値を更新したものもある。その更新箇所についても網掛けをしている。

②令和6年度岸和田市産業活性化推進委員会における評価や、頂戴した意見等も踏まえて以下について追記、修正を行った。

・【2-2】「リーディング産業の創出」について、施策指標は、令和6年度に事業化されたため「岸和田発の新しいビジネスの創出件数」として設定した。

③個票シートの施策指標や主な事業等について、以下の補足説明を行った。

【1-1】「効果的な誘致活動の推進」の令和5年度に「IT関連企業の進出に対する支援」として補助金を交付することとしていたが、実績は無く、事業の見直しを行ったため、令和6年度の事業実績及び事業指標は無い。

【1-2】「新たな産業拠点の創出」の施策指標について、現在事業化に至っていないことから今後の進捗に伴い設定を行う意向。また、決算額とともに予算額についても、事業化されていないため、現時点では0となっている。

【2-1】「創業支援の強化」の施策指標である「創業支援件数（創業支援等事業計画に基づく証明書の発行件数）」について、対前年で比べると、実績が30件から46件と増加しているが、達成率については93.8%から74.2%と下落している。これは、創業支援等事業計画の見直しを行ったことで、岸和田ビジネスサポートセンター（Kishi-Biz）での創業支援件数の計画値が7件から37件に増加したことに伴い、全体の計画値が増加したためである。

【2-2】「リーディング産業の創出」の施策指標は、令和6年度に事業化されたため「岸和田発の新しいビジネスの創出件数」として設定した。

「企業による実証事業の実施を支援」では、商工会議所と本市で連携し取り組んでおり、令和6年度に1件の応募があり実証を行った。

【3-1】「経営支援体制の充実」の施策指標は、本市と地域金融機関で実施している「Kishi-Bizによる支援の事業者数」。

・主な事業および事業指標について、主な事業「Kishi-Bizによる相談体制の構築と伴走支援」の事業指標「Kishi-Bizによる相談件数」は、Kishi-Bizの体制見直しで人員減少に伴い、相談件数が大幅に減少した。

・令和5年度に設定した主な事業「カーボンニュートラルな脱炭素社会の実現に向けた取組の支援」の事業指標「省エネ診断等の支援に対する補助件数」について、具体的には事業者が省エネ診断を実施する際の費用に対する支援の件数となるが、令和6年度実績は5件で、令和5年度実績より増加している。

・脱炭素社会の実現に向けた取組を更に推進するため、令和6年度は、省エネ診断に基づく設備等の整備に対して、財政的支援を行うこととし補助金を創設した。6件の実績があった。

・Kishi-Biz は、岸和田商工会議所に業務を委託するなど、経営体制を見直し、令和7年度より再スタートしている。

【3-2】「交流と販路開拓の支援」の施策指標である「事業者マッチング等支援件数」が0件の理由は、Kishi-Biz の経営体制の見直しのため、既存の相談のフォローに回ることが多く、新規のマッチングに至らなかったため。

・令和6年度の予算増額及び令和7年度の予算減額について、令和5年度に予算額を上回る補助金のニーズがあったこと、また、販路拡大に対する補助金の支援で、支援対象を拡充したことから、令和6年度は予算増額を行った。しかし、補助金の支給要件を絞ったため補助件数は思うような増加には至らなかった。そのため、令和7年度は令和6年度から1,200千円の予算減額となっている。

【4-1】「商業・工業・サービス業の振興」の施策指標は、経済センサスという国が公表している統計情報を用いた長期的な指標4つと、本市の企画課が毎年実施している市民意識調査を用いた短期的な指標1つを設定している。

・経済センサスのデータ更新があったものは、施策指標の数値も更新している。

【4-2】「観光業の振興」の主な事業及び事業指標について

・宿泊体験や観光体験等を令和5年度までは実証事業として実施していたが、令和6年度からは実装事業として、KIX 泉州ツーリズムビューローと事業者が観光体験ツアーとして実施している。

・令和6年度からは、民泊補助事業に加えて、誘客・周遊促進イベントの岸和田城武者行列やスイーツコンテストを新たに実施している。

・新たに事業設定した取り組み等を行うために増加した令和6年度の予算額 33,623 千円に対して、決算額は 66,865 千円となっている。

・令和7年度の予算額は 31,967 千円と令和6年度に比べて減少している。

【4-3】「農業・漁業の振興」の施策指標について、「農業産出額」は、経済センサスという国が公表している統計情報を元に設定している。

・経済センサスのデータ更新があったものは、施策指標の数値も更新している。

【4-4】「臨海部の賑わいづくり」について、岸和田旧港地区の有効活用について、令和6年度に大阪港湾局が実施したスポーツドーム跡地の公募により、買受人が決定した。

【5-1】「人材確保の機会提供」について、令和5年度から新たな施策として実施している主な事業「奨学金返還支援助成の実施」の事業指標「奨学金返還助成金の交付者数」の実績が、12 件から 27 件に増し、支援の周知が進んでいると考えている。

【6-2】「良好な労働環境づくりの促進」の主な事業及び事業指標について、令和5年度にサテライトオフィスを開き、誘致を行う予定だったが、実績が0件であったため、令和6年度に事業見直しを行った結果、事業自体を実施していない。

<事務局>

「(案件2)(2)新・産業ビジョン岸和田にかかる進捗状況整理(評価)の進め方」について、資料1と資料2を用いて以下の説明を行った。

- ①進め方は令和6年度と同様で、2つのワーキンググループに分かれて評価いただく。
- ②ワーキンググループAは、基本施策【1-1】～【3-2】の工業を中心とした企業誘致や事業者支援に関する分野について議論いただく。
- ③ワーキンググループBは、基本施策【4-1】～【6-2】の商業、農林水産業、観光など幅広いにぎわいの創出と人材確保育成に関する分野について議論いただく。
- ④個々の施策について、進捗状況の整理や協議を行った上で、その内容を第2回産業活性化推進委員会にフィードバックするという形で進め、評価していきたいと考えている。

<委員長>

(案件2)について、資料3及び資料4を使って「(1)評価シートの変更点及び令和6年度までの施策に対する市の評価と今後の方向性に関する説明」があり、資料1及び資料2を使って「(2)新・産業ビジョン岸和田にかかる進捗状況整理(評価)の進め方」について事務局より説明がありました。これについて、委員の皆様から何かご質問ございましたらお願いします。  
なお、先に申し上げたとおり、評価シートの内容に関するご意見は後ほど(案件3)にてお伺いいたしますので、まずは統括的なご意見がありましたらお願いいたします。

<委員各位>

意見なし。

<委員長>

特にご意見が無いようですので、「(案件2)新・産業ビジョン岸和田(岸和田市産業振興基本計画)の進行管理について」は、原案通り承認でよろしいでしょうか。

<委員各位>

異議なし。

<委員長>

ご異議が無いようですので、「(案件2)新・産業ビジョン岸和田(岸和田市産業振興基本計画)の進行管理について」については原案どおり承認されました。以上で、(案件2)を終了します。

次に「(案件3)新・産業ビジョン岸和田 評価シートの内容に関する意見について」に移ります。  
事務局より説明をお願いします。

<事務局>

先ほど(案件2)で評価方法をワーキンググループにて詳細に調査・審議し、次回の当委員会で評価を頂戴することとなりました。

本日は、先ほどの説明を踏まえ、何かご意見等がございましたらお願いしたいと存じます。

<委員長>

只今の事務局からの説明のとおり、評価シートにございます基本施策ごとの個別の内容等についてご質問やご意見はございますか。

<委員>

【4-3】「農業・漁業の振興」について、令和5年度のワーキングコメントに「地蔵浜みなとマルシェ開催時等、臨海部の公共交通の便について、関係部署との協議を検討すること。」とありますが、現在の進捗についてお聞かせください。

<事務局>

農林水産課から回答いたします。地蔵浜みなとマルシェ開催時等の公共交通の協議状況について、本市の公共バスであるローズバスは、交通まちづくり課が所管ですが、実際に停留所の一つとして組み込むことは、なかなか難しいと聞いております。

現在の状況といたしましては、バス等の公共交通というよりは地蔵浜みなとマルシェ開催に合わせ、バス会社等と事業委託をするような施策の方が良いのではないかという議論になっております。

<委員>

詳細な内容については個別のワーキンググループでお伺いできればと思いますが、統括的な観点としてお伺いさせていただきます。

岸和田市の「新・産業ビジョン」に基づく施策として、企業誘致、産業育成、魅力ある企業の育成、新規創業など、様々な取り組みが進められていると思いますが、岸和田市では、全体的な産業政策の中で明確に「この分野を伸ばしていきたい」という具体的な意向や方針があまり共有されていないように感じています。

もちろん、農業・漁業・工業・商業の全てが地域にとっては大事であるという点は理解しております。例えば、工業分野で言えば、岸和田市は既存の強みとして金属系産業が目立ちますが、金属分野のさらなる誘致などに力を入れていこうといったような方針等があるのでしょうか。

また、他の産業分野についても、統一的な意向や全体的な方針が設定されているのかどうかをお伺いしたいです。

現状の分析を踏まえた上で、「この分野を強化していきたい」という意向や、産業政策全体の統一的な方向性をご教示いただければと思います。

#### <事務局>

ありがとうございます。ご質問に対する明確なお答えは難しい部分もありますが、「新・産業ビジョン 岸和田」の中では各分野にわたる取り組みを記載しており、その中でも特に力を入れている点についてお話をさせていただきます。

1 つ目は、新たな産業の誘致です。岸和田市では、昭和 40 年代から鉄工金属団地や木材コンビナートに特化した産業を誘致してきました。その結果として、鉄工金属団地が基盤となり、金属分野が岸和田市の基幹産業として定着してきた歴史があります。こうした基幹産業を維持しつつ、新たな先端産業を誘致することに力を入れていきたいと考えております。先端新産業の誘致は、評価シートにも記載している重要な柱の 1 つです。

2 つ目は、基幹産業への支援です。農業・漁業などの 1 次産業では、多くの方々に日々ご尽力いただいておりますが、工業分野における支援のあり方も重要だと認識しています。基幹産業をさらに強化するためには、売上の向上、つまり稼ぐ力を備える生産性の向上が課題です。

RESAS（地域経済分析システム）から、製造業が基幹産業であることは分かる一方で、売上の向上が必要であると考えています。そのため、基幹産業全体において生産性向上の取り組みに重点を置き、地域の経済発展を図りたいと考えています。

また、重点を置いている具体的な事業者支援の取り組みとしては、Kishi-Biz の活動を通じて事業者の皆様の成長を後押ししてきました。

なお、私自身は産業部局の立場からお話しておりますが、本市には農林水産部局もございます。

1 次産業は泉州地域全体でも極めて重要な産業ですので、それぞれの部局がそれぞれの役割を担い、進行している状況です。

以上のように、新たな産業を誘致しつつ、基幹産業を支援し、地域全体の生産性向上を目指していきたいと考えています。

#### <委員>

私自身の考えを申し上げますと、岸和田市は大阪府内の基礎自治体の中でも、工業・農業・漁業・商業が内部循環型で回る、非常に希少な自治体だと思います。

岸和田市は海から山までの豊かな資源に恵まれ、農業や工業、地域独自のイベントも盛んです。

このように多くの要素が揃った自治体は珍しい存在と言えるでしょう。特に農業と漁業の出荷額や生産額に関しては、他の自治体と比較しても非常に突出しているのではないのでしょうか。

内発的や内部循環型という表現が適切とは言い切れないかもしれませんが、ほぼそのような形で地域が回っており、内部での循環性が非常に高い。これは岸和田市ならではの貴重な性格だと考えます。

このような、特徴的な自治体が意外とよく言われているのが、外側から新しいものを持ってこようとするとコストもかかるし、あまり上手くいかないということです。

だからこそ、この内部循環をさらに活用することが重要であると考えます。市内のつながりを深め、地域内でさらに連携を強化し、可能性を広げれば、より魅力的な地域づくりができるのではないのでしょうか。

とはいえ、外から新しい視点や資源を取り入れることで、さらに面白い取り組みが生まれる可能性もあります。

岸和田市は内部でできることが非常に多い自治体であり、地域内のつながりを最大限に生かすことができる貴重な自治体です。このような特色を生かしつつ、内部と外部のバランスを取りながら新しい方向性を模索することが、大きな可能性につながるのではないのでしょうか。

#### <委員>

観光振興について、あまり国際化に向けた施策が無いように感じます。岸和田市は関西国際空港に非常に近い位置にあるという地理的な大きなメリットがあります。また、岸和田城をはじめとする歴史的な遺跡や観光資源が豊富です。これらの好条件が揃っていますので、少なくとも観光分野においては、国際化が重要ではないかと考えます。

特に IT と国際化は地域振興や産業振興を進める上で、今や必要不可欠な要素です。岸和田市がこれらを積極的に取り入れることで、さらなる発展が期待できるのではないのでしょうか。

例えば、黒壁スクエア（滋賀県長浜市）や南大阪の事例のように、海外に向けて市場を拡大していくという取り組みには多くの可能性があると思います。また、岸和田市にはお城や商店街など魅力的なスポットが存在する一方で、空き店舗が目立つのも事実です。この空き店舗を上手く活用し、地域のイメージ向上につながる施策を展開することで、国際化への一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。

岸和田市が観光資源や地域特性を最大限に活かしながら、海外市場にも目を向けることで、より魅力的で活気ある地域を目指していけると考えます。ぜひ、この観点からの検討を進めていただきたいと思います。

<事務局>

観光課から回答します。委員のご発言の通り、岸和田市は関西国際空港に近く、高速道路や鉄道網が充実しているため、立地面で大きな強みを持っていると感じています。観光課としても、この強みを活かすために様々な取り組みを進めており、具体的には、インバウンド観光客を誘致するためのツアーの企画・開催といった施策を実施しています。

このような取り組みの成果として、外国人観光客の利用状況にも変化が見られます。

例えば、岸和田城を訪れた外国人の利用客数は、令和4年度には約800名程度だったのが、令和6年度には約4,000名まで増加しました。この数字からも、インバウンドの方々に岸和田市を認知していただけていることが分かります。私自身も現場での体感として、着実に観光客が増えていると感じています。

引き続き、より多くのインバウンド観光客が岸和田市にお越しいただけるような環境作りに努めていきたいと考えています。

<委員>

事業指標等として、補助件数等が設定されているものが多く散見されますが、補助金というのはあくまでもツールであり、その性質上、予算があれば当然に付与されるものだと考えます。

補助金は初めから一定の結果が見込まれる仕組みともいえますので、重要なのは補助件数等ではなく、補助金を用いてどれだけ具体的な成果を生み出したかという点ではないでしょうか。

例えば、売上高の向上、利益率の改善、新規創業件数の増加など、明確な指標を基に成果を評価していくことが望ましいと思います。もし、それらの指標による実績評価が難しい場合には、補助金を活用した事業者へのヒアリング調査を実施し、支援を受けたことでどのような成果が得られたのか、具体的な状況を把握することが必要であると考えます。

さらに、成果が十分に上がらなかった事業者については、事業者へヒアリングを行い、課題を分析し、必要に応じて改善策を講じていくことで、補助金施策そのものの質を向上させることができます。また、この改善プロセス自体が成果につながると考えられます。

補助金の件数を成果として強調するだけでは、実際に事業者に及ぼす影響や効果が分かりにくい場合があります。補助金を出すことに留まらず、それを通じてどのような成果を生み出せたかに焦点を当て、施策の効果を最大化していくことが大切だと考えます。

<事務局>

成果指標についての委員のご意見は、まさにその通りだと感じております。補助金を成果指標として挙げる点が多い点や、補助金が予算に基づき執行されることを考慮すると、その評価方法について検討が必要だという趣旨、率直にごもっともな意見と拝聴いたしました。

確かに、本委員会では産業活性化についての評価を行っていますが、それだけではなく、市庁内でもさまざまな施策の評価を実施しています。ただし、成果指標や評価指標の設定方法については、日々苦勞しているのが実情です。

その上で、一点補足させていただくと、私どもは施策の目標に対する結果と、それを達成するためにどのような活動を行ったのかという指標を分けて評価するよう努めております。もちろん、委員のご指摘のように、「補助金を交付した結果としてどうなったのか（補助金としての財政面での支援に対する効果はどうか）を具体的に示すことが重要である」ことは認識しております。

例えば、売上高が上昇したか、件数において事業の支援が増えたかなど、具体的な成果を示すための説明を行う必要があると考えています。そのため、評価指標の設定と成果分析をより丁寧に進め、市の施策が実際にどのような結果をもたらしたのかを明確にお伝えできるよう取り組んでまいります。

事業活動の評価についてですが、私どもは目標に向けてどれだけ活動を行い、どれだけの予算を投入したか、そしてその結果としてどのような効果が得られたかという点を基本的な指標として考えています。これは、アウトプット（取り組みの成果）とアウトカム（その取り組みが生み出した結果）という考え方で説明できるかと思います。

具体的には、どのような事業に予算を投じ、その結果としてどのような成果が返ってきたのかを分けて整理しています。特に事業指標に関しては、予算の投入額がわかりやすい指標として重要だと考え、記載を進めております。

一方で、補助金について「予算があれば当然に付与される」といったご指摘もございましたが、大変申し訳なく思う点として、実際には岸和田市もご承知のとおり厳しい財政状況にあります。そのため、予算配分は容易ではなく、費用対効果を重視しながら、限られた資源をどの事業に優先的に投入すべきか非常に慎重に検討しています。

補助金についても、必要性が高い場合でも予算の都合で十分に確保できないケースが出てくるのが実情です。

本日まで出席いただいている委員の皆様の中には、最近、岸和田市の予算が減少傾向にあると感じ、さまざまな苦勞をこらえていただいている方もいらっしゃるのではないかと拝察しております。

市としても限られた予算の中で、効率的に補助金を交付し、事業を実施していけるよう日々の運営に努めています。

厳しい財政状況の中ではありますが、少しでも必要な事業に予算を確保し、成果を挙げられるよう引き続き努力を重ねる所存です。限られた資源を最大限活用するため、皆様のお知恵をお借りしながら、よりよい市政運営を目指してまいりたいと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### <委員>

水産物の振興についてですが、【4-3】「農業・漁業の振興」に関する成果指標や数値を拝見する限り、限られた予算の中で「食の磨き上げ事業」が取り組まれている点は評価できると思います。事業指標として「催事等出展回数」などが掲げられていますが、最終的に重要なのは、この事業を通じて実際にどれだけの水産物が流通し、どの程度の規模で地域活性化につながったかという成果を具体的に示すことが重要だと思います。

事業指標として催事回数が11回とされていても、食の磨き上げ事業の成果として数字が上がっているのは今のところ一魚種のみと認識しております。今後、この事業を継続していく中で、複数の魚種が流通に乗るような取り組みや、生産物の加工についても補助があまり必要でない魚種が増えれば、事業の効率性がさらに向上し、予算の活用効果がより明確に示せるのではないのでしょうか。

岸和田市食の磨き上げ協議会の資料には、流通量（何キロ出荷されたか）といった数字が含まれており、これが非常に具体的で分かりやすい指標になるかと思います。

こうした数値を産業活性化推進委員会の資料に反映させることで、事業が今後どれだけ拡大し、複数の魚種が流通に乗った場合に、予算に対してどれだけ成果が跳ね上がるかを示すことができると思います。このような具体的な成果の連携を、ぜひ岸和田市食の磨き上げ協議会と密に協力して進めていただきたいと考えております。

#### <事務局>

農林水産課よりお答えいたします。「食の磨き上げ事業」の事業指標については、「食の磨き上げ事業の催事等への出展回数」で設定していますが、実際には特に黒鯛に関する取り組み、いわゆる岸和田黒鯛プロジェクトを進めています。具体的には、令和5年度に飲食店で約1,000食を提供いただいた実績があり、令和6年度にはその倍となる成果が上がりました。このような指標も今後は取り入れていくべきかと考えております。

ただし、食の磨き上げ事業には農産物や水産物が含まれております。前年度は水産物の黒鯛に特化した形での取組が目立ちましたが、食の磨き上げ事業としては、彩誉人参やその他の農産物も含め広くPRしていきたいと考えています。そのため、現在は「食の磨き上げ事業の催事等への出展回数」という形で広範囲な指標を設定しております。

今後、黒鯛に関しては取り扱いキロ数など、より具体的で実績が伝わりやすい指標を事業指標として採用することも検討したいと思います。

<委員>

【4-4】「臨海部の賑わいづくり」のスポーツドーム跡地について、令和6年7月の本委員会によるコメントには、「令和6年度の公募が不調に終わった場合も見据えて事業を進めること」と記載されています。そのコメントに対して、担当課のコメントでは「公募により買受事業者が決定した」との回答がありました。

つまり、公募に成功し買受事業者が決定している現状では、それに対する具体的な行動を差し控えるという理解でよろしいでしょうか。

<事務局>

スポーツドーム跡地の公募についてのご質問ですが、前回の委員会でお話しさせていただいた時点では、まだ公募がなされていない状況でした。この後公募がなされまして、4月の末頃に事業者に土地が引き渡された状況です。これから「臨海部の賑わい創出」に資するような事業をしていきたいと考えております。

<委員>

民間企業が自身で購入した土地の活用方法について、市側が要望等を伝えることは可能なのでしょうか。

<事務局>

民間事業者様に対して直接、「こうしてください」とストレートに申し上げるのは難しい部分があると認識しております。ただ、公募に関しては、スポーツドーム跡地が大阪府の土地であるため、大阪府が主体となり実施しましたが、その対象となった土地は、本市が策定した「旧港地区周辺の魅力づくり構想」のエリアに含まれております。

この構想に基づき、賑わいを生み出すような取り組みを条件として公募がなされていますので、事業を進められる際には、この構想の趣旨に沿った形で、事業を進めていただけるよう、意見やお願いをさせていただければと思っています。

<委員>

Kishi-Biz について、現状は岸和田商工会議所へ委託している形であると認識しておりますが、間違いありませんでしょうか。

また、場所についても、岸和田カンカンベイサイドモールから岸和田商工会議所に移転したということは、賃料等の費用も減少しているのでしょうか。

<事務局>

Kishi-Biz について、委員のご認識の通り、令和7年度より岸和田商工会議所への委託事業という形で実施をしております。また、費用についても減少しています。

<委員長>

【1-2】「新たな産業拠点の創出」についてです。他の基本施策と比較すると、【1-2】の施策は基盤整備が中心となるため、以前から、評価指標の設定が非常に難しい施策内容だと感じていました。

資料 4「新・産業ビジョン岸和田 評価シート個票(案)」の 3 ページを拝見すると、「指標」が全て空欄となっています。資料 3 には「今後の事業進捗に伴い設定」と記載されており、これから指標設定を行う方針であるため、当然のことだと思いますが、【1-2】の指標設定においては、何によって測るか、もう少し検討の余地があるのではないかと思います。

特に、【1-2】の施策はソフト事業とは異なり、直接ハード面が中心となる大きな事業であります。さらに、インフラ整備が含まれている点からも、大阪府との連携や調整も必要な内容かと思っております。で、岸和田市単独で指標を設定し、評価するのは難しいかと思っております。

これは私の意見ではありますが、評価指標について何か進展させられる可能性があるのならば、ぜひご検討いただけないかと思っております。もちろん、途中から施策指標を大きく変更するのが困難なことは理解しておりますが、現状を考慮した上で、再検討の余地を少しでも探ることができればと思います。

<事務局>

【1-2】に関して、岸和田市では木材コンビナートの整備を通じて、先端産業の誘致を図り、新たな第 2 の基幹産業を構築しようという考えで取り組んでいるところです。市としては、この構想に強い意欲を持って進めているところではございますが、現状としては十分な周知等ができていない点が課題として残っております。その原因の一つとして挙げられるのは、委員長がおっしゃった基盤整備という段階に関するお話とも関係がございまして、この取り組みがまだ計画段階ではなく、構想段階にあるという点です。

大阪府が主な事業主体になるものかと思われそうですが、現状として、府から正式に事業を行うという決定や判断はいただいております。そのため、本市としては大阪府に対して事業実施を要望している段階であり、具体的な進捗を挙げるのが難しい状況です。

今後、大阪府で事業実施が正式に決まれば、埋め立て工事などの具体的な基盤整備に向けた事業が進められます。その際には、組織体制の作り方や進捗管理などを指標に反映し、より具体的な項目を設定していきたいと考えています。

<委員長>

ありがとうございます。よく理解できました。関連してですが、今後指標を決めて進捗をカウントしていく際に、この目標年度を振り返ってみると、外部の方がこの資料を見た場合に、途中から急に投げやりに運営を始めたようにも見えるのではないかと、それまでの運営状況がどうだったのかも分かりにくい、指標の数字が小さくて他の施策と比べて見栄えが劣るという印象を与える可能性があるのではないかと懸念しております。

そのため、今おっしゃっていただいたように、もう少し分かりやすい指標を検討できる可能性があれば、ぜひお願いしたいと思います。指標が明確で説得力がある形になれば、施策の進捗状況がより伝わりやすくなるだけでなく、他施策との比較においても評価されやすくなるのではないのでしょうか。

<委員長>

他に、「(案件3) 新・産業ビジョン岸和田 評価シートの内容」に関して、ご意見はございますか。

<委員各位>

意見なし。

<委員長>

ありがとうございます。(案件3)についてはご意見いただいたということで、ありがとうございました。次に「(案件4) その他」に移ります。  
こちらら全体的な意見・ご質問があればお願いします。

<委員>

観光に関して質問がございます。岸和田だんじり祭の際に、観光客はどの程度ホテルに宿泊することができるのでしょうか。去年のだんじり祭では、私の友人が岸和田市内のホテルを利用しましたが、宿泊している方々のほとんどが祭礼関係者の方々でした。そのため、宿泊施設が祭礼関係者で埋まり、観光客が泊まれる余裕があまりないのではないかと感じました。実際、だんじり祭の開催期間中、岸和田市内のホテルには何名の観光客が宿泊できるのでしょうか。

また、岸和田市は日帰り観光には非常に適した地域ですが、観光の際の宿泊先としては「どこに泊まれるのか。」と尋ねられることがあります。これらについて、宿泊施設の充実が課題ではないかと思っています。

例えば、町内の空き家を活用して祭礼関係者の宿泊施設として提供するような取り組みを行うことで、宿泊環境が大きく改善され、だんじり祭の開催期間も観光客がホテルに宿泊することが可能になると考えられます。

また、【1-1】「効果的な誘致活動の推進」の「ホテル・旅館の進出に対する支援」件数が令和4年から令和8年の4年間で3件となっていますが、こちらが現状での限界なのでしょうか。それとも、今後さらに宿泊施設の誘致を拡大する方向で検討されているのでしょうか。

<事務局>

ありがとうございます。ご指摘の通り、ホテルについては早い段階で予約が埋まるという実態があるようです。例えば、だんじり祭は毎年開催時期が決まっているため非常に早い段階から、極端な場合には翌年の分まで予約されるという話も耳にしたことがあります。そのため、現状として宿泊事情がそういう状況にあるのだらうと理解しております。

ただし、観光客の方々が具体的にどのホテルに宿泊されているかについては、現時点では詳細を把握できておりません。また、コロナ禍を経て、駅前に数件あったホテルが廃業されたという実態もあり、全体的に宿泊施設の数そのものが減っている状況なのではないかと考えています。

そのような状況を受けて、現在観光課では、民泊事業を後押しするための補助金制度を設けております。実際、去年は2件の民泊施設が補助を受けて開業し、大阪・関西万博の開催から好影響もあり、事業者の方から「夏場ぐらいまで予約が埋まっている」といった嬉しいご報告もいただいています。このような具体的な成果もありますので、民泊に関する支援は引き続き進めていきたいと考えています。

もちろん、補助をいつまで継続できるかについては予算との兼ね合いがございしますが、少なくとも令和7年度については補助を続けていきたいと思っております。

<事務局>

ご質問がございましたホテル・旅館の誘致については、私たち産業部局が企業誘致の一環として取り組んでいる内容になります。

本市では、ホテルの誘致に関してこれまで長年取り組んできております。先ほど他の委員からご指摘いただいたスポーツドーム跡地に関する話題もありましたが、それ以前から旧港地区周辺でもホテル用地を準備しておりました。その際にはホテル誘致条例を制定し、ホテル事業者に進出を促す取り組みを行いましたが、残念ながら当時は進出が実現せず、誘致活動としては成果が乏しかったという過去の実績がございました。

その後、ようやく条例に基づいて東岸和田駅前にルートインホテルに出店いただくことができました。また、このルートインホテルへの支援は毎年行っております。

ただし、だんじり祭の開催期間を軸としたホテル誘致については、これまでホテル事業者から「だんじり祭の試験曳きを含めた 4 日間だけでは採算が取れない」という意見を聞いております。祭り用としてホテルを進出させるのは、事業者にとって収益面で課題が多いというのが実際の状況です。そのため、祭り期間中を中心とした誘致には難しさがあることを認識しております。

#### <委員>

祭りの時期に観光客を優先してホテルに宿泊できるようにする仕組みや、条例のようなものを検討することはできないでしょうか。市内には空き家も少なくないと思いますので、その活用を進めることで祭り時期の宿泊事情の改善につながるのではないかと考えます。祭り時期におけるホテルの状況や空き家の活用の可能性について、ぜひ幅広い視点でご検討いただければと思います。

#### <事務局>

確かに、そのような視点は非常に重要だと感じております。祭りの日だけに限らず、岸和田市には様々な観光目的で訪れる方がおられますし、祭り以外の観光客を誘致する取り組みも行っています。また、産業や仕事の関係で訪れる方々もいらっしゃるため、宿泊施設を充実させることは幅広いニーズに応える上でも重要だと考えています。

そのため、市内の宿泊施設については、ホテルや旅館はもちろんのこと、民泊などの選択肢も含めて、広く確保していけるよう努めてまいります。宿泊環境の整備は観光や産業振興における重要な課題の一つですので、引き続きこの方向で取り組んでいきたいと思っています。

#### <委員>

SWOT 分析の観点から見た際に、岸和田市の強みをどのように判断しているのでしょうか。また、泉州山手線エリアの土地区画整理事業に関連し、保留地を確保しながら進めている事業の現状についてご教示いただきたいと思います。

#### <事務局>

まず 1 点目の、本市の強みについて、「新・産業ビジョン岸和田」にも記載しておりますが、岸和田市は非常に多様な資源が揃ったまちであると考えています。具体的には、先ほど委員からのご指摘にもありました通り、岸和田市は海から山まで様々な資源に恵まれ、1 次産業から 3 次産業までが総合的に揃っています。このバランスは他の地域と比較しても際立った特徴であり、大きな強みとなっています。

特に、1 次産業は泉州・南泉州地域、さらには南大阪エリアでもトップクラスを誇っております。この 1 次産業を基盤として、2 次産業や 3 次産業と掛け合わせて発展させることで、いわゆる 6 次産業化に取り組む可能性も広がります。このような産業の多様性と地域資源の豊かさは、本市が持つ無限の可能性を示しており、まさに岸和田市の最大の強みと考えております。

<委員>

岸和田市は豊富な資源が揃っているものの、それをうまくミックスして活用し、次の段階である 6 次産業化に繋げていく取り組みが十分に進んでいないという課題があると思います。

<事務局>

ありがとうございます。ご指摘の通り、岸和田市は豊富な資源がフルスペックで揃っているものの、それをうまくミックスして活用し、次の段階である 6 次産業化に繋げていく取り組みが十分に進んでいないという課題があると認識しております。まさにその点は重要なお指摘だと受け止めています。

そのため、本市では Kishi-Biz の活動を通じて、こうした課題に対応するべく取り組みを行っています。さらに、本市の特性を活かし、まち全体を実験場として活用するという実証事業の提案も含め、今後も地域全体が持つポテンシャルを最大限に引き出せるように努力を続けてまいります。

2 点目の泉州山手線に関する件についてですが、本日は道路事業の詳細についてご説明できる担当課の者が不在でございます。本件に関して、交通の結節点にあたる主要幹線道路付近において、新たな街づくりを進める構想がございます。

この街づくりでは、商業や住宅地の整備だけでなく、新たな産業用地を立地させていく計画も含まれています。こうした都市計画が進行することで、地域の活性化や新たな産業展開が期待されております。

今後、進捗状況が具体的に進んだ際には、改めて詳細をご報告させていただくとともに、必要に応じてご相談させていただきたいと考えております。

<委員長>

他に、「(案件4)その他」に関してご意見はございますか。

<委員各位>

意見なし。

<委員長>

特に意見が無いようですので、「(案件4)その他」については、以上となります。  
事務局から連絡事項をお願いします。

<司会>

今年度も先ほどご審議いただきましたとおり、各ワーキンググループで検討を進めたいと思います。  
ワーキンググループのメンバー推薦にあたり、後ほどご依頼文をご郵送いたしますので、推薦書と  
日程調整用紙を提出期日までに、事務局までご提出ください。

なお、次回、第2回岸和田市産業活性推進委員会は、  
9月下旬を予定しております。

また改めて案内文を差し上げます。

議事といたしましては、ワーキング会議でのご意見を参考に委員会としてのコメント等についてご意見  
を賜りたいと思います。

なお、開催日が近づきましたら、会議資料等をお送りいたしますのでよろしくお願いいたします。  
事務局からは以上です。

<委員長>

本日の議事は全て終わりました。委員の皆様、議事進行にご協力いただきありがとうございました。  
以上で、令和7年度第1回岸和田市産業活性化推進委員会を終了いたします。